

成果の説明書

(氏名) 唐澤達之	(学部) 経済学部
1 重要事項	
<p>(1) 科学研究費助成事業基盤研究 (B)「工業化以前の都市の機能と経済発展：「長期の」18世紀イギリスを中心として」(研究代表者：山本千映 [大阪大学])による研究</p> <p>2020年度より3年間、標記研究課題が科学研究費助成事業に採択され、研究分担者として参加している。本研究では、イギリス都市史の個別実証研究の成果を総合し、都市に居住することの効用という観点から都市化のメカニズムについて定性的な分析を行うとともに、工業化に先立つ都市化の要因を可能な限り数値データでそろえ、計量分析を行うことを目的とする。</p> <p>2021年度の第1回研究会(9月25日オンライン開催)では、個別報告(岩淵令治「近世都市江戸における「消費」研究をめぐって」及び小西恵美「ハイ・ストリート分析と新聞広告——19世紀半ばのベリ・セント・エドマンズの事例——」)と、研究分担者全員の研究の進捗状況の確認が行われ、第2回研究会(3月14・15日大阪大学で開催)では、研究分担者全員の進捗状況が報告され、唐澤は近代ロンドンの給水事業について報告した。また、本共同研究で対象とする54都市の給水システムの整備状況について、2次文献を中心に整理する作業を進めた。</p> <p>当初の計画では、8月下旬にロンドン市文書館とイギリス国立公文書館において近世の給水事業会社に関連する史料の収集を行う予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大のために、昨年度に引き続き実行できなかった。しかし、コロナ禍以前に収集した近世ロンドンの代表的な給水事業会社のひとつであるチェルシー給水事業会社の会計記録や理事会議事録の転写及び分析を継続し、資本調達の方法と出資者の社会層、事業会社が提供するサービスの内容や給水の地理的範囲と収益の規模、顧客の社会層、企業の統治のあり方等の点に留意しながら、当社の経営分析を行った。その結果、当水道会社は、18世紀初頭にコミュニティ・ビジネスとしての性格を色濃く帯びながら設立されたが、19世紀にはいると急速な都市化と水需要の急増、水道会社の新規参入による企業間競争の激化、取水源であるテムズ川の水質汚染などの経営環境の大きな変化に柔軟に対応しつつ、営利企業としての性格を強めていく一方で、主要なステークホルダーである顧客、株主、経営者間の利害関係のバランスをとりながら、安定した経営パフォーマンスを実現したことが明らかとなった。その研究成果は論文「19世紀前半ロンドンの給水事業——チェルシー水道会社の経営分析——」として『高崎経済大学論集』第64巻第4号(2022年)に掲載された。</p>	
(2) 学会における活動	
<p>比較都市史研究会の幹事として、例会の企画運営、会誌『比較都市史研究』の編集刊行、会計の管理などに関わった。</p>	
(3) 大学行政関連業務	
<p>副学長(研究担当)として、学内の種々の委員会を主宰し、全学的な観点から本学の改革・発展の推進に関わった。2021年度は特に、2022年度に受審予定の大学教育質保証・評価センターによる認証評価のために「点検評価ポートフォリオ」作成の責任者として業務を推進した。また、本学の重要な地域貢献・地域連携事業を担う、まちなか教育活動センター運営委員会と学生ボランティア活動支援室の改組を行い、事業推進体制を整備した。</p>	
2 その他の事項	
3 次年度以降の計画・抱負	

(1) 研究関連では、科学研究費助成事業基盤研究（B）において、本共同研究で対象とする 54 都市の給水システムの整備状況について、2 次文献を中心に整理する作業をさらに進める。また、長い 18 世紀におけるロンドンの水道会社の経営について、チェルシー水道会社以外の個別企業の実証研究も進め、巨大都市ロンドン内部の地区間の比較を試みたい。

(2) 大学行政関連では、2022 年度に大学教育質保証・評価センターによる認証評価を受審し、秋にはその実地調査があるため、これらへの対応が大きな課題となる。また、組織を改編したまちなか教育活動センター運営委員会と学生ボランティア活動支援室のパフォーマンスを向上させること、その他研究担当の副学長として、本学の研究活動、地域貢献・地域連携事業全般を推進し、第 3 期中期目標・中期計画（2023～2028 年度）に接続させていくこと、が主な課題となる。